まっとうな市政を目指す 熊本市議会議員 吉村けんじから皆さまへ

ごあいさつ

ウクライナ難民支援募金　上通りにて

いつの時代でも、どこの国においても、弱い立場の人が、戦争や災害に関わらず被害に遭い易く、貧困や命の危機に晒されます。今現在のウクライナの状況は様々な国の思惑もあり予断を許さない状況ですが、何よりも「人間の命と尊厳」の危機を国際社会が一丸となって乗り切らなければなりません。日本においても、先進国と言われながら、貧困などからくる餓死や孤独死など本当に21世紀なのかと疑うような事件事故が多発しています。いろいろ思うことはありますがやはり「教育」の大切さが身に沁みます。情報が溢れる現代社会の中、それを取捨選択する力を身に着け、子どもの頃から正しい行いと、そうでない行いをきちんと判断する力を養う教育が求められます。併せて私たち大人の成長も求められているのは間違いありません。

先日、「赤ちゃんポスト」「内密出産」に取り組まれている熊本市西区の慈恵病院の理事長夫妻にお話を伺う機会に恵まれました。ご夫妻のお話を聞けば聞くほどこれまでの不明を恥じるばかりですが、母子の権利確保と保護の観点から市議会議員としても多くの大切な仕事と宿題をいただいたと感謝することができました。市議会定例会においても「内密出産」の熊本市の体制や法制化に向けての取り組みを市長に問いました。まだまだ道のりは遠くとも、一歩一歩前進できるよう努めて参ります。皆様方のご支援を宜しくお願い致します。

慈恵病院にて蓮田理事長と意見交換

令和4年度第一回定例会一般質問

発言と答弁の要旨のご報告

①成人年齢の引き下げに伴う投資の授業

単に金融の勉強にとどまらず、消費者トラブル等の対応方法等社会の中で生きる為の授業を行う事。

→教育長答弁

高校生の段階から消費者としての知識と実践力を身に着け、実社会で活用できる授業にしていく。

②民生児童委員

活動中の不幸な事故を無くし、なり手不足の解消に努め、行政との連携を強化するよう要望。

→健康福祉局長答弁

安全確保等について注意喚起を行うとともに緊急時における連絡体制について改めて周知する。民生委員協議会と連携し新たな人材の発掘や若い世代への理解促進などの取組を進め、なり手不足の解消に努める。

③地域猫適正管理推進事業

長年自治会等を悩ませるノラ猫対策を、行政が地域猫適正管理推進事業において継続的支援をする事。

→健康福祉局長答弁

今後この事業の効果や課題を地域のご意見とともに検証し具体的取り組みについて検討を進め、地域住民の皆様と協働で問題の解決に取り組んで参る。

④熊本市のヤングケアラー支援体制

熊本市の支援体制の早期の構築と認知度向上の取組。

→健康福祉局長

認知度向上のため、さらなる周知、啓発を行うとともに、関係機関との連携強化を深める為、令和4年度よりヤングケアラー支援員を配置し、子どもが社会から孤立することのないよう、早期に発見し寄り添った支援に取り組む。

⑤内密出産

母子の保護の在り方、現行法における取扱い、法整備について市長の考え。

→大西市長答弁

母子の命を守ることが最優先で、問題解決のための相談体制を構築し孤立を防ぐ。子どもの出自に関しては情報の管理、開示の方法、時期等の適切な取り扱いについて課題を整理していく。今後は慈恵病院とも定期的に協議しながら、予期せぬ妊娠等で悩む人々の救済と赤ちゃんの権利の両立を図るためには、社会的合意に基づき、国の責任において法整備がなされるべきであり引き続き要望するとともに議員立法も含め働きかける。

⑥市長の平和や核兵器廃絶への思い、ウクライナ問題への見解

→大西市長答弁

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻に強く抗議する。唯一の被爆国として、平和主義の理念を掲げる憲法を持つ我が国においては核兵器廃絶を世界の人々に訴え続け、次世代へ語り継ぐための取組を進め、恒久平和の実現に向けた努力を粘り強く行う。

議会報告会 ビブレス広場前にて

吉村事務所インターン学生と市長表敬

市政に関するご意見やご相談、また地域のご要望などはお気軽にどうぞ！

熊本市議会議員（北区選出）
吉　村　けんじ
〒861-5513
熊本市北区鶴羽田町 1041-120
連絡先【市民連合議員控室】
TEL 096（328）2650
FAX 096（324）7777
メール yoshimurafamily6@gmail.com

臥薪嘗胆

☆プーチン政権がウクライナに国際法違反である軍事侵攻し、双方多くの方々が命を失っています。戦争はいつの時代も女性や子供の涙で溢れ、若者の命を奪い、勝者も敗者も存在しません。私達日本人は何ができるのか、そこが今問われています。私達は先の大戦で加害者であり被害者でもあり、多くの尊い命を奪い奪われました。そして未だ核兵器の後遺症で苦しむ人々、沖縄で基地問題や不平等な地位協定の下暮らす方々がいます。日本が支援することは防弾チョッキを送る事なのでしょうか？彼の地では、多くの人が故郷を追われ、家族が引き離され、極寒の中寒さに震え、飢えや病気、怪我に苦しみ1日でも早い戦争の終結を祈っておられます。日本ができる支援は何かそして国際社会の中で訴えることは何か自ずとわかるはずです。もちろんこの機に乗じて元首相がいう「核兵器の共有」議論などは言語道断です。過去に学び将来に生かす知恵がまともな日本人にはあるはずです。先日熊本市繁華街で高校生が難民救済募金をしていました。大変感銘を受けました。政府は若者に学ばなければなりません。